

# コロナ禍におけるボランティア・市民活動団体の現状に関するアンケート集計結果

## 調査の背景

新型コロナウイルス感染症の流行にともない、地域住民の暮らしが大きく変化しました。流行の早い段階から、感染には咳やくしゃみなどにより生じる飛沫と、それに含まれるウイルスへの接触が要因となることがわかり、日常生活においては外出や他者との交流を自粛せざるを得ない状況となりました。流行の長期化により、他者との物理的距離の維持や、マスク着用が定着化するなど、新たな生活スタイルが見出されてきましたが、ボランティア・市民活動団体においては、制限や制約の中で活動を継続することが難しかったり、中止する事態が生じました。

## 調査のねらい

- ① コロナ禍におけるボランティア・市民活動状況の把握
- ② これからのボランティア・市民活動の発展に向けた支援の検討

## 調査対象

ボランティア活動プラザみきに「ボランティア・市民活動実践団体情報把握シート」を提出しているボランティア・市民活動団体の代表者

## 調査期間

令和2年10月7日から10月31日

## 回収率

379団体中232団体(回収率 61.2%)

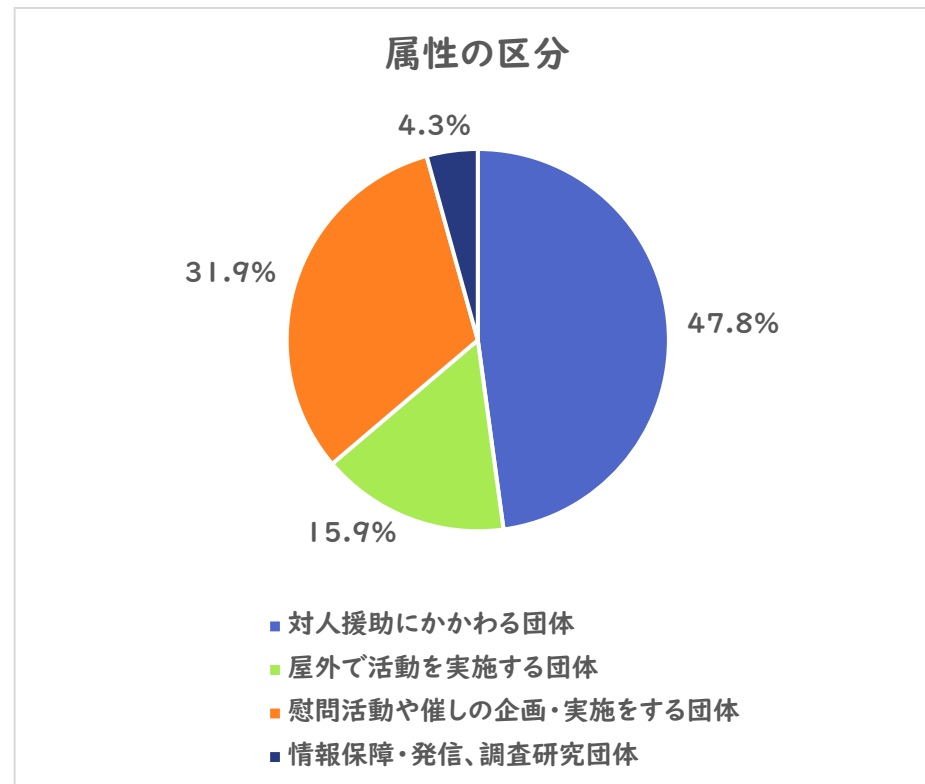
## 実施主体

三木市社会福祉協議会 ボランティア活動プラザみき



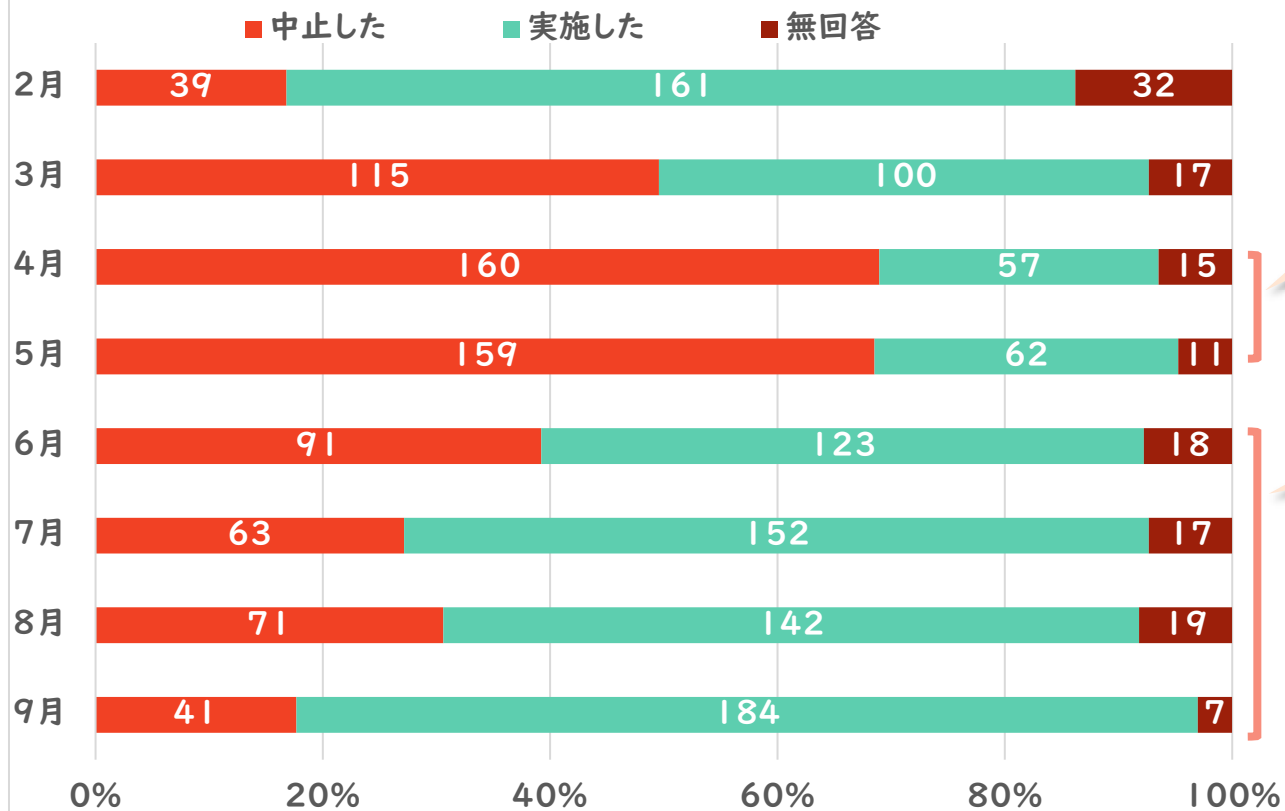
## アンケート回答団体の属性について

属性の区分	団体数	%
対人援助活動に関わる団体	111団体	47.8%
屋外で活動を実施する団体	37団体	15.9%
慰問活動や催しの企画・実施をする団体	74団体	31.9%
情報保障や情報発信、調査・研究に関わる団体	10団体	4.3%



## 新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、活動をどのようにしたか

### 全体 (232 団体)



緊急事態宣言が発令されていた4月～5月は、活動を中止した団体が約70%を占めている。

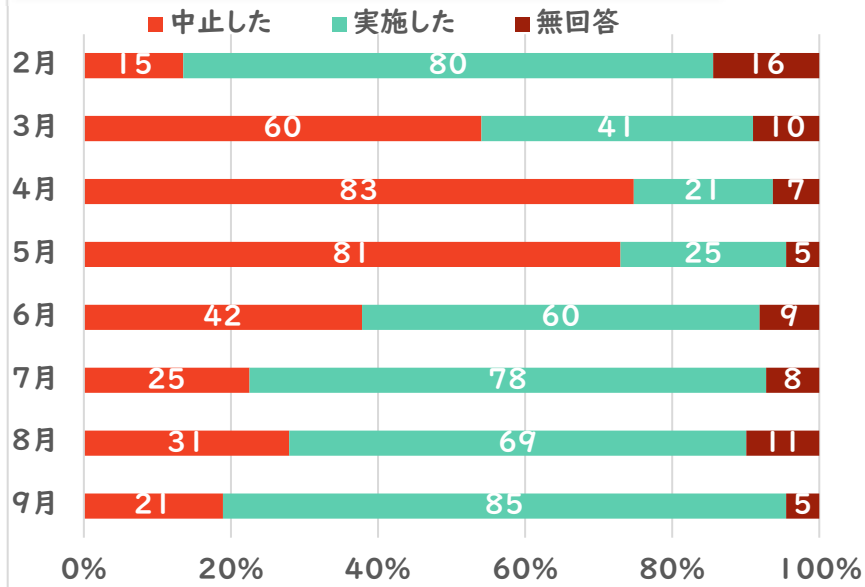
宣言解除後の6月以降は活動を行うグループが段階的に増えている。  
(9月時点で79%が活動)

#### 団体区分別にみると・・・

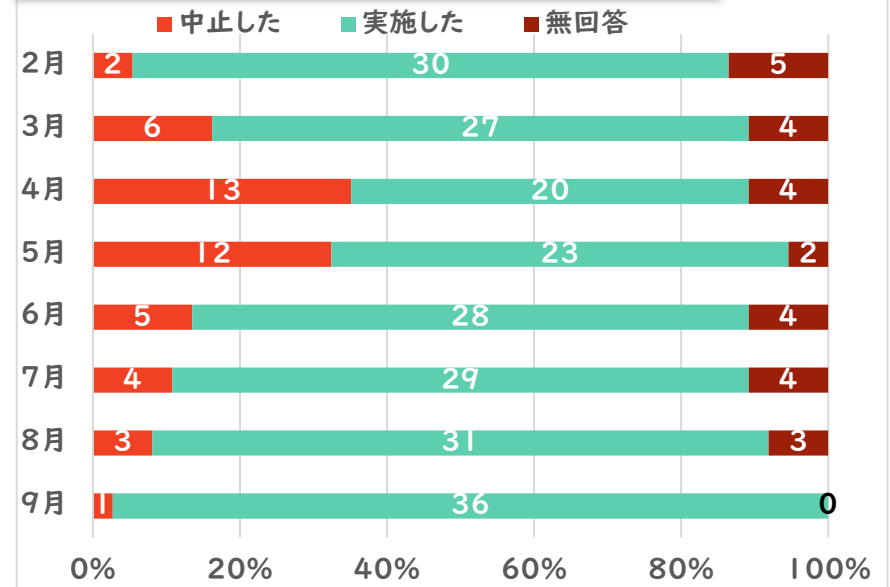
対人援助活動をする団体は全体と同様の傾向。慰問活動等をする団体は、福祉施設や対人援助活動をする団体が行うふれあいサロン等が主な慰問先であることが関連し、活動再開の時期がやや遅れていると思われる。社会的状況により催しの企画も行いにくい状況がわかる。

屋外で活動する団体は比較的早期から活動再開しており、感染予防の観点からも活動環境を確保しやすかったのではないかと推察される。

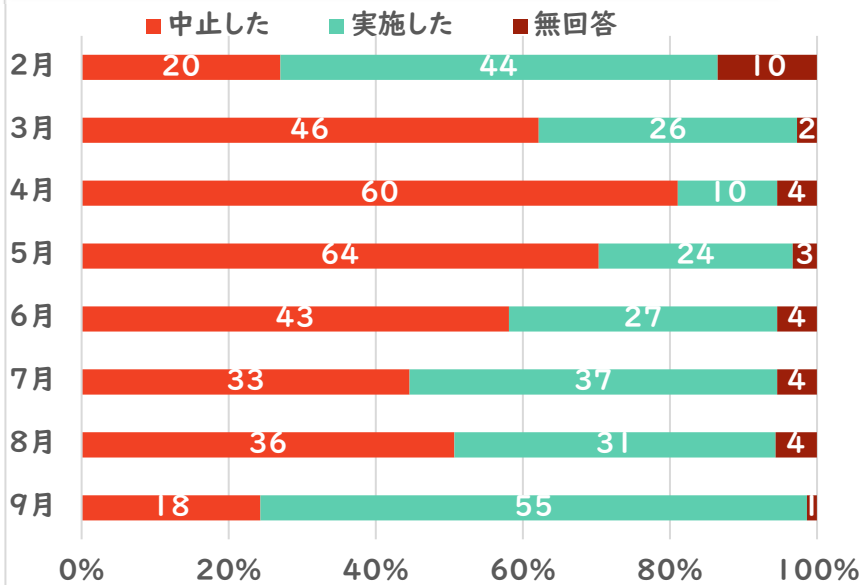
### 対人援助活動に関わる団体(111団体)



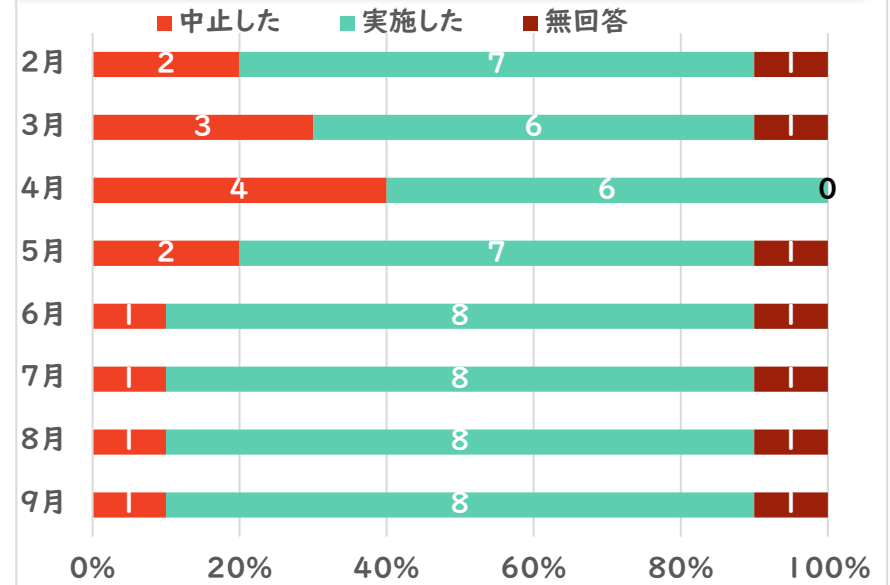
### 屋外で活動を実施する団体(37団体)



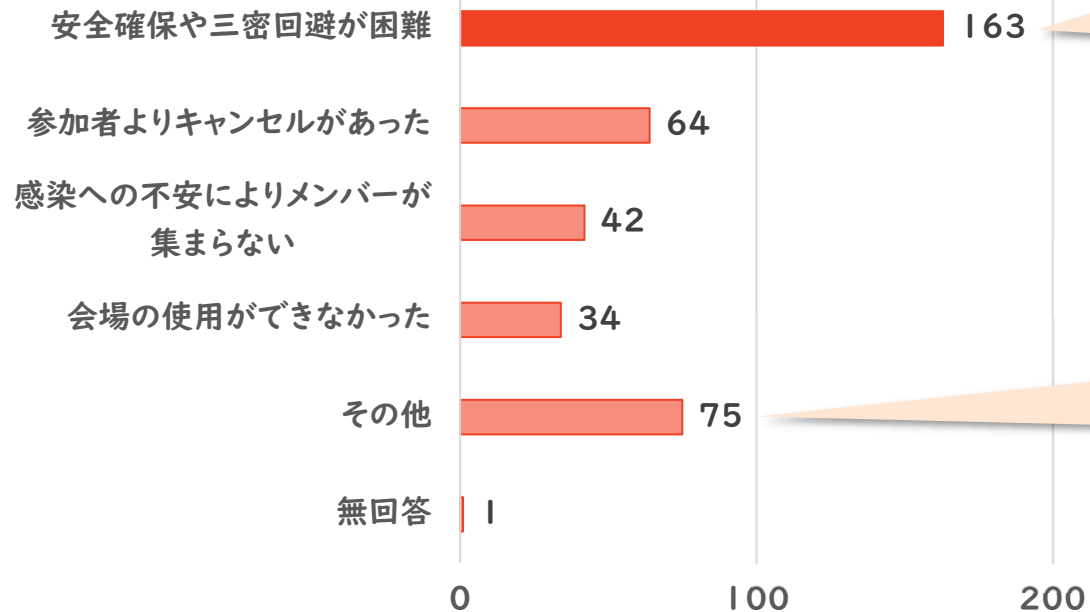
### 慰問活動や催しの企画・実施をする団体(74団体)



### 情報保障や情報発信、調査・研究に関わる団体(10団体)



全体（206団体）



人が集い、ふれあい、顔を合わせて交流することが醍醐味であるボランティア・市民活動において、社会的距離をはじめ、環境面での安全確保が難しくなったことが窺える。

自粛ムードなどの社会的状況に則したり、感染症に対して確実な情報や対応策がないことに戸惑い、不安を募らせて活動を継続できなかった状況が窺える。

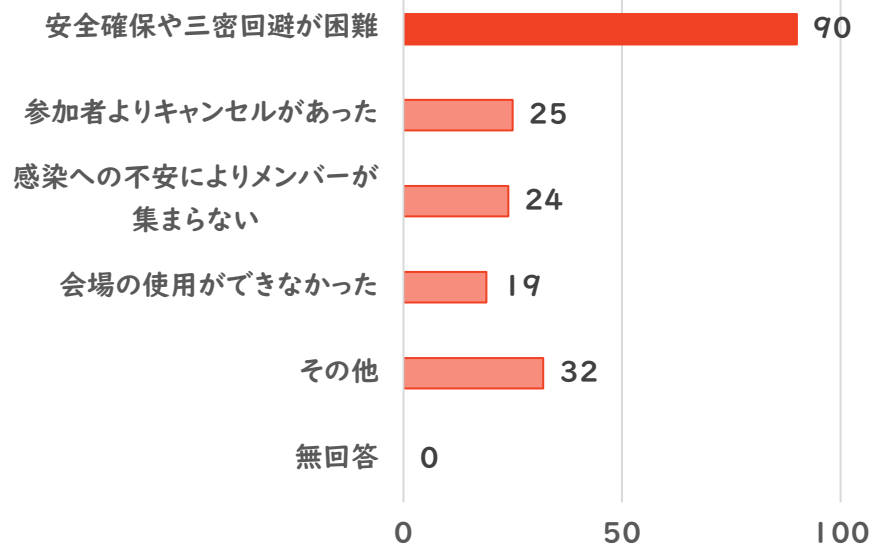
団体区分別にみると・・・

参加者やメンバーを感染症の危険に晒さないことが重要と考えられており、特に交流やつながりづくりを主とする対人援助活動をする団体で顕著だった。

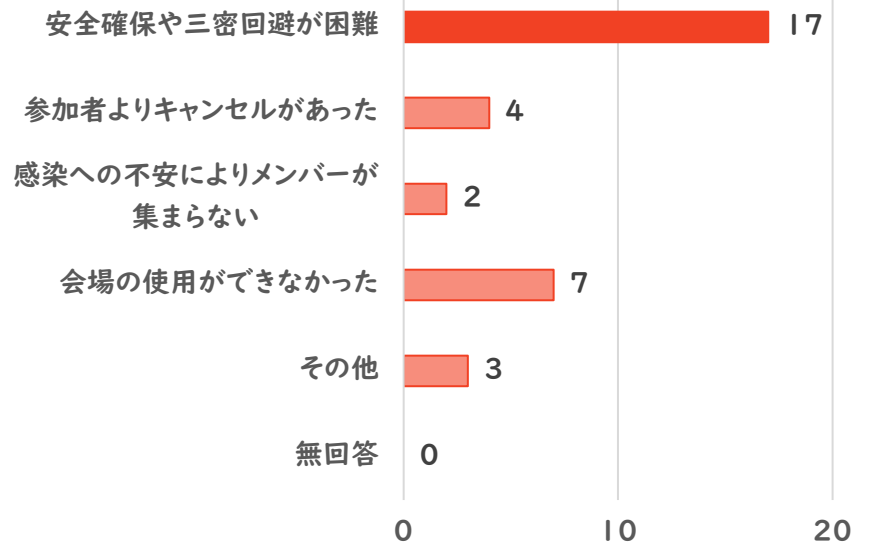
（その他の回答）

- ・緊急事態宣言が出ていたため、活動を自粛していた。
- ・学校が休校になったから（活動ができなくなった）。
- ・具体的な感染対策が明確見いだせなかったから。
- ・感染しないという確証がないから。
- ・自分、家族への感染が不安だから。
- ・社会全体的に自粛ムードがあったから。
- ・行政、関係機関より中止の指示があった。
- ・利用者が高齢のため、安全を優先した。
- ・感染源、クラスターになると困るから。
- ・感染症対策を検討するのに時間が必要だったため。

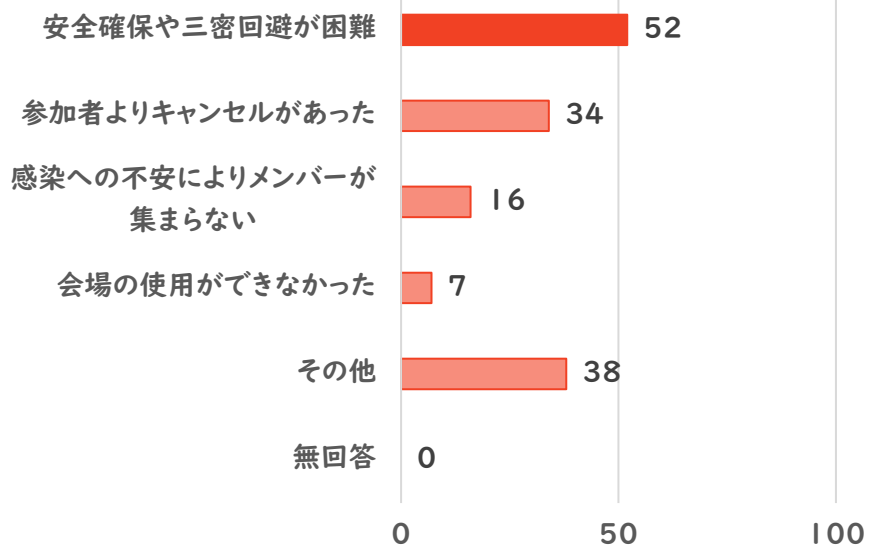
対人援助活動に関わる団体(103団体)



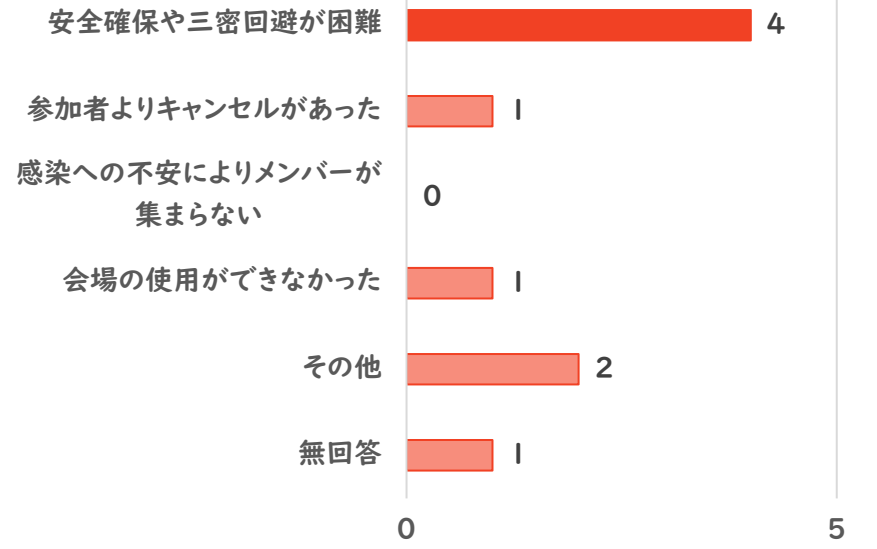
屋外で活動を実施する団体(23団体)



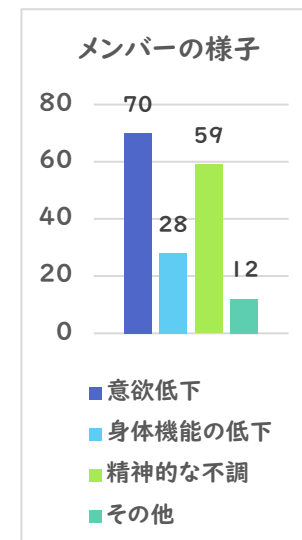
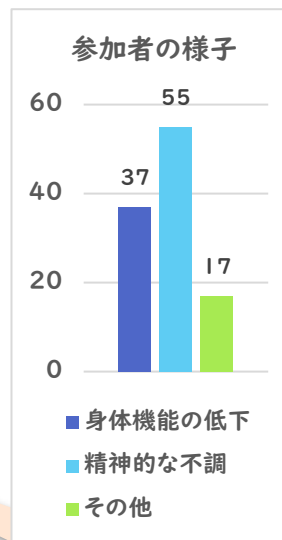
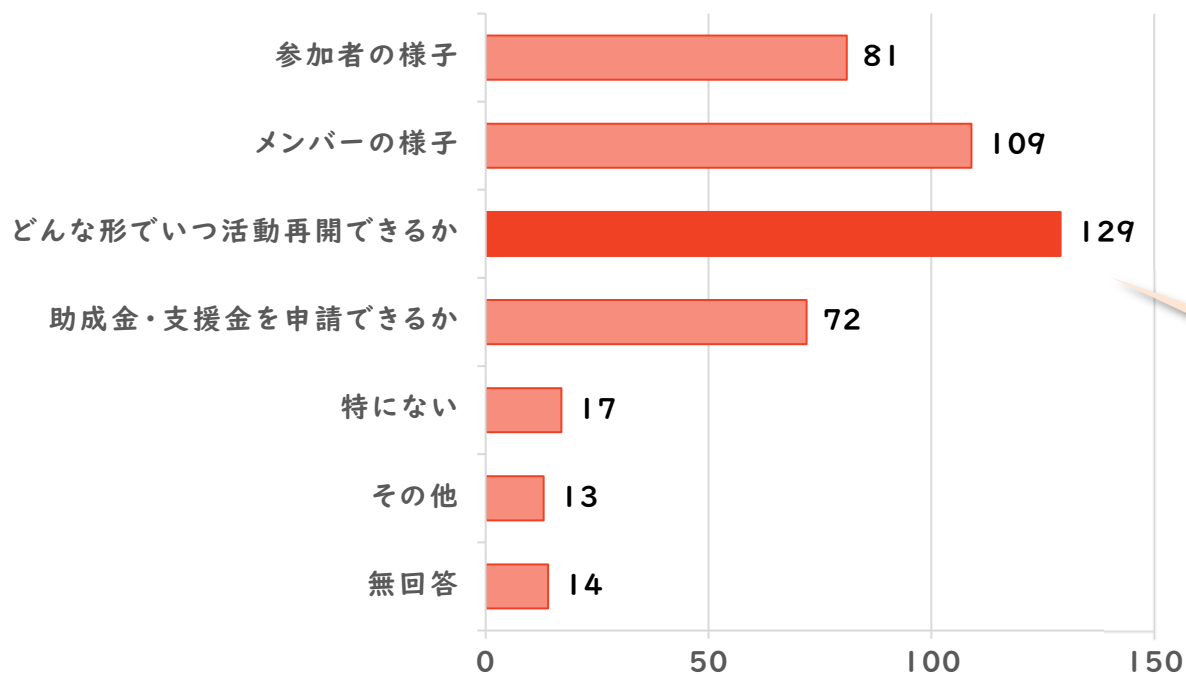
慰問活動や催しの企画・実施をする団体(73団体)



情報保障や情報発信、調査・研究に関わる団体(7団体)



全体（206団体）



活動再開について気にしていた団体が約63%だった。

(その他の回答)

- ・参加者より再開を望む声があった。
- ・どこまで対策をすればよいか。
- ・これからの活動について気になっていた。
- ・孤立する子育て家庭がないかどうか。
- ・今年度予定している行事・催しができるかどうか。

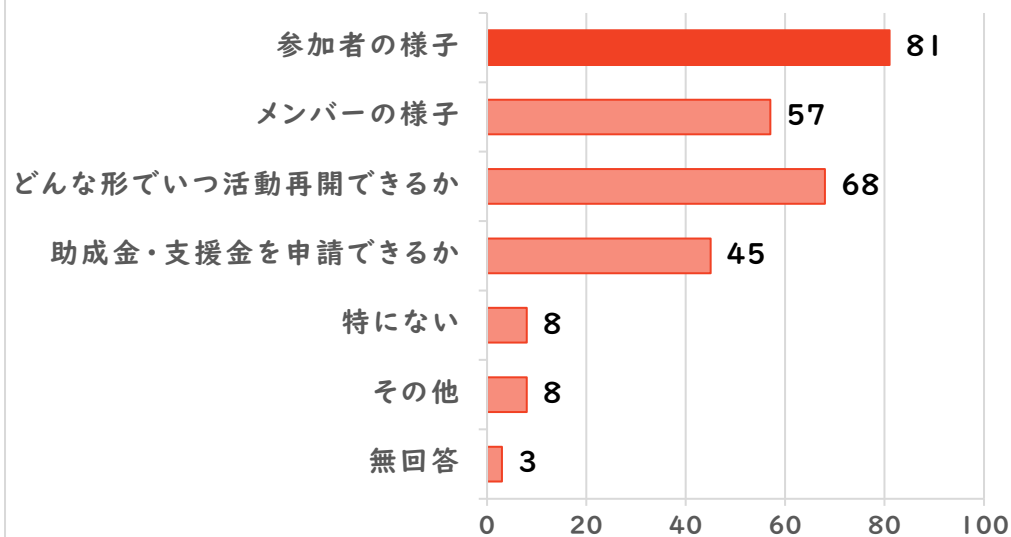
団体区別にみると・・・

対人援助活動をするグループでは約79%が「参加者の様子」を気にしており、参加者である高齢者の外出・交流機会の減少やフレイルへの移行が懸念されていたのではないかと考えられる。

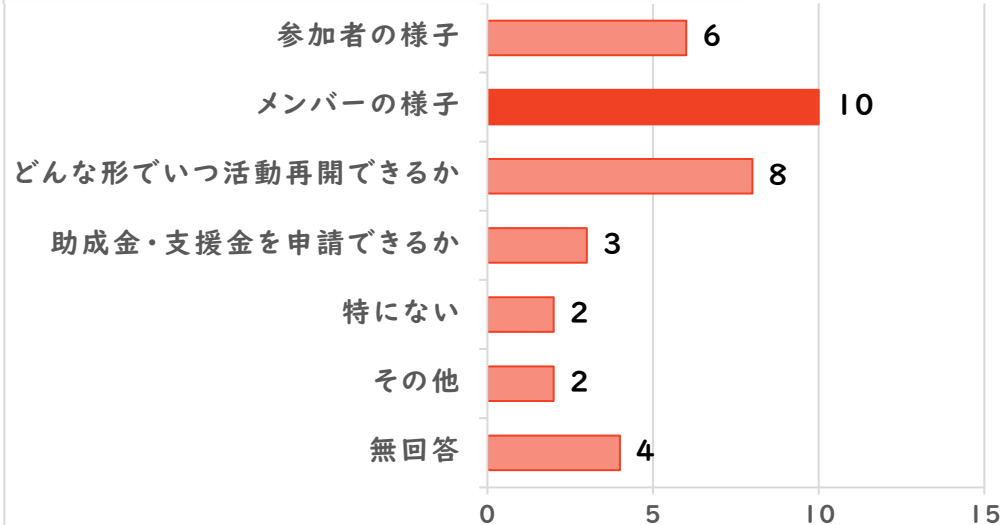
慰問活動等をする団体、屋外で活動する団体では「メンバーの様子」を気にしており、活動機会減少によるメンバーの意欲・精神面を気遣っていたと考えられる。



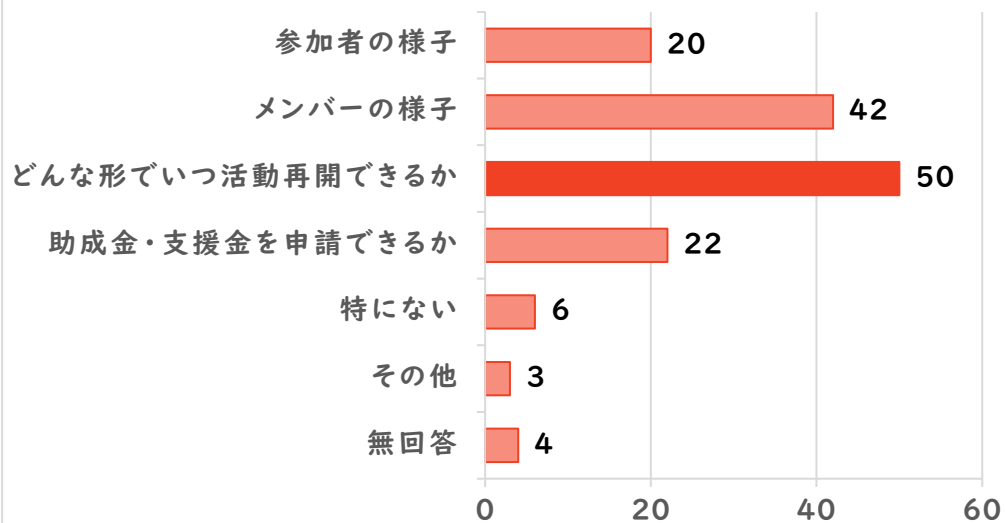
### 対人援助活動に関わる団体(103団体)



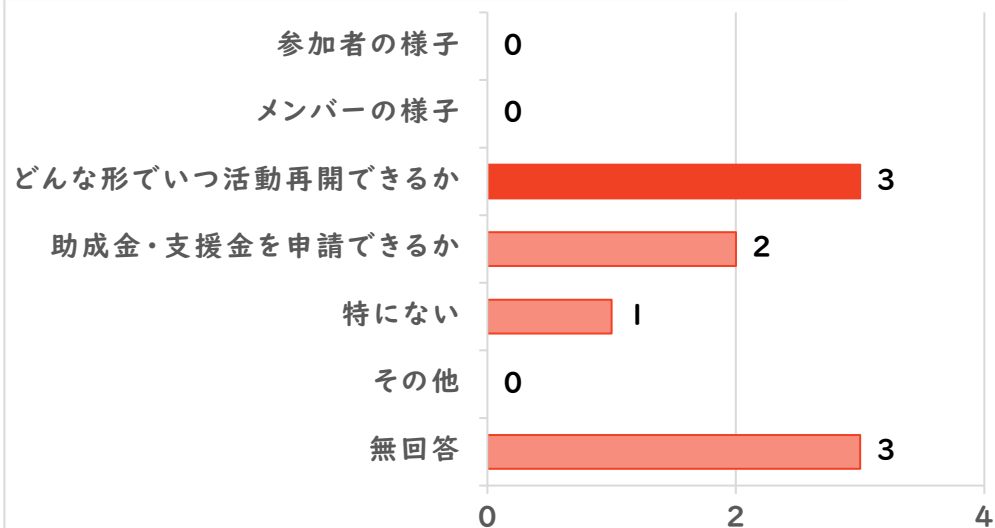
### 屋外で活動を実施する団体(23団体)



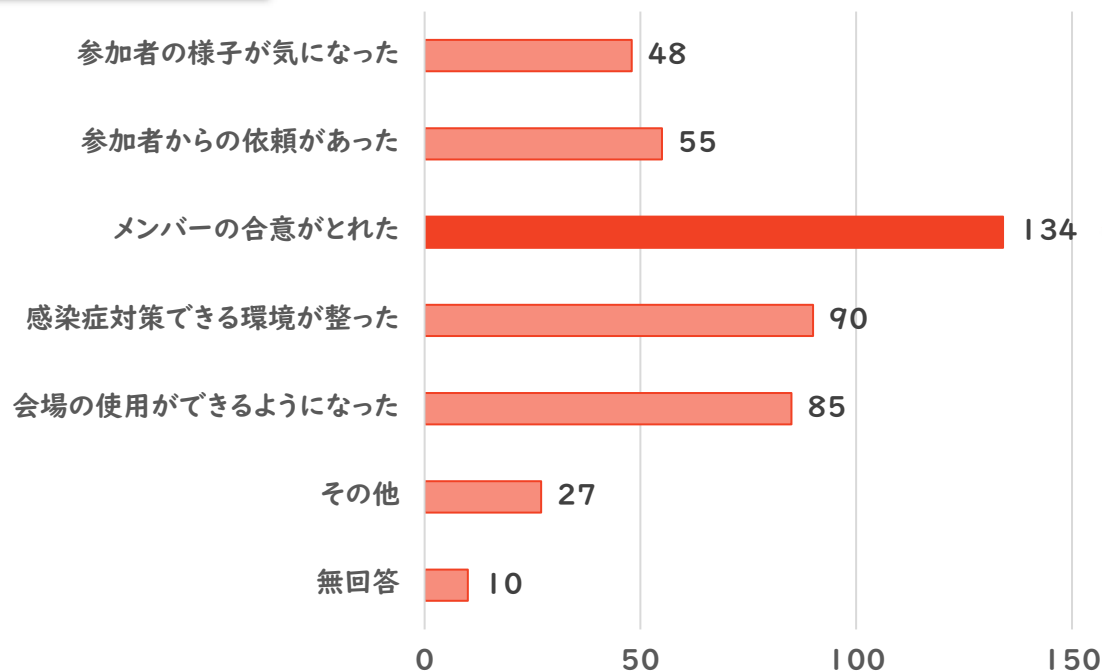
### 慰問活動や催しの企画・実施をする団体(73団体)



### 情報保障や情報発信、調査・研究に関わる団体(7団体)



全体（191団体）



活動再開について、共に活動するメンバーと合意できたことが最も多かった。活動を中止していても、メンバー間でコミュニケーションをとり、活動の方向性について模索していたことがわかる。

団体区分別にみると・・・

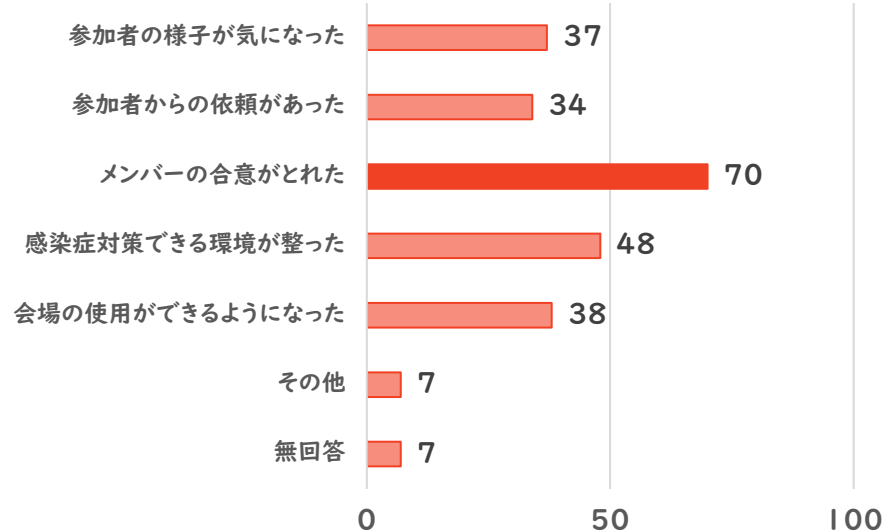
対人援助活動をする団体では、参加者の様子が気になったり、参加者から依頼を受けるなど、参加者を中心に活動継続・再開を検討していた。

慰問活動等を行う団体では、約68%が「会場の使用ができるようになった」からと回答。公民館等の公的施設を拠点に活動する団体が多く、施設の利用制限により、活動継続・再開、中止が左右された状況が考えられる。

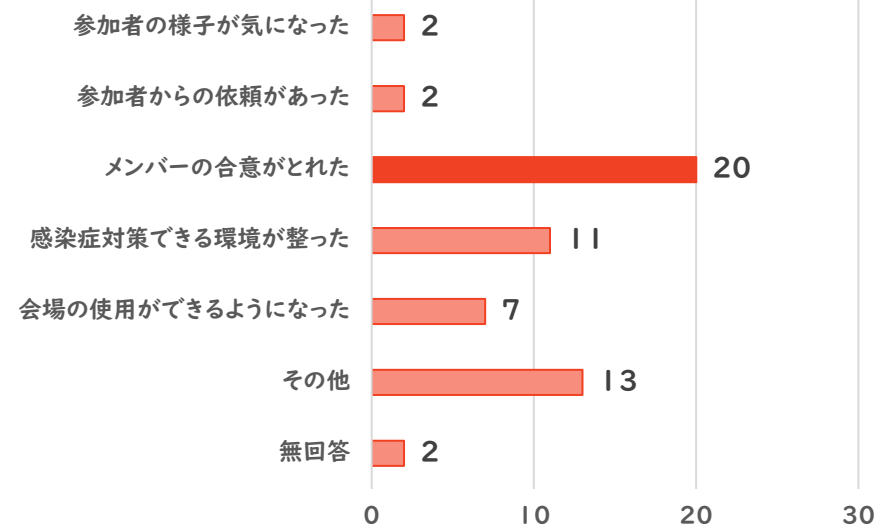
（その他の回答）

- ・活動者の様子が気になったから。 ・いつでもボランティア活動ができる状況にしたかったから。
- ・対策が万全とはいかないが、いつまでも調整するわけにいかないから。
- ・関係機関による活動停止の指示が解除されたから。
- ・助成金・支援金を資金として活動しているので、助成の条件が満たせなくなると困るから。
- ・屋外での活動で3密を回避できるから。・世間的に活動規制が緩和されていたから。
- ・対象者の範囲が限定的であるから。

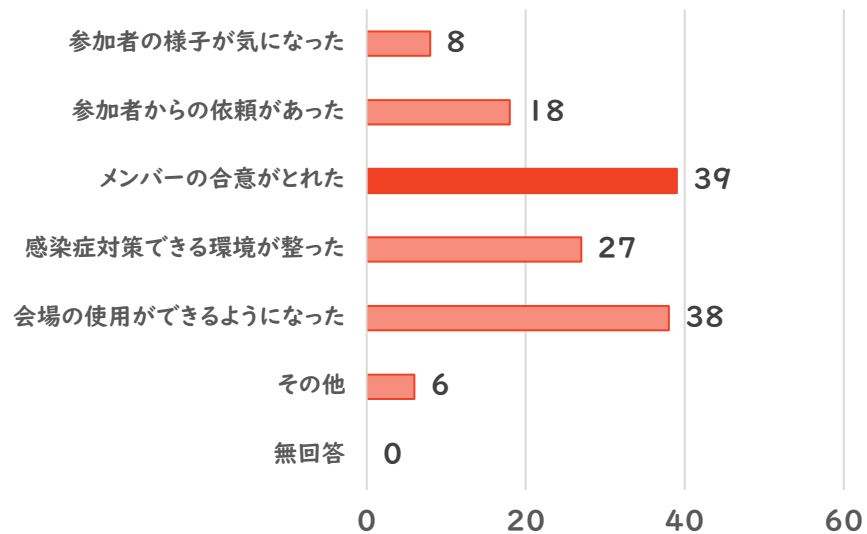
### 対人援助活動に関わる団体(90団体)



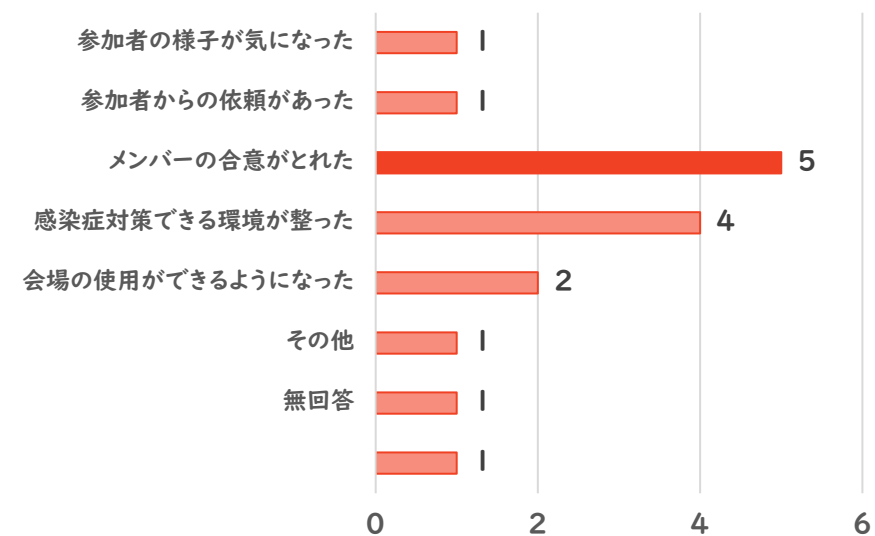
### 屋外で活動を実施する団体(36団体)



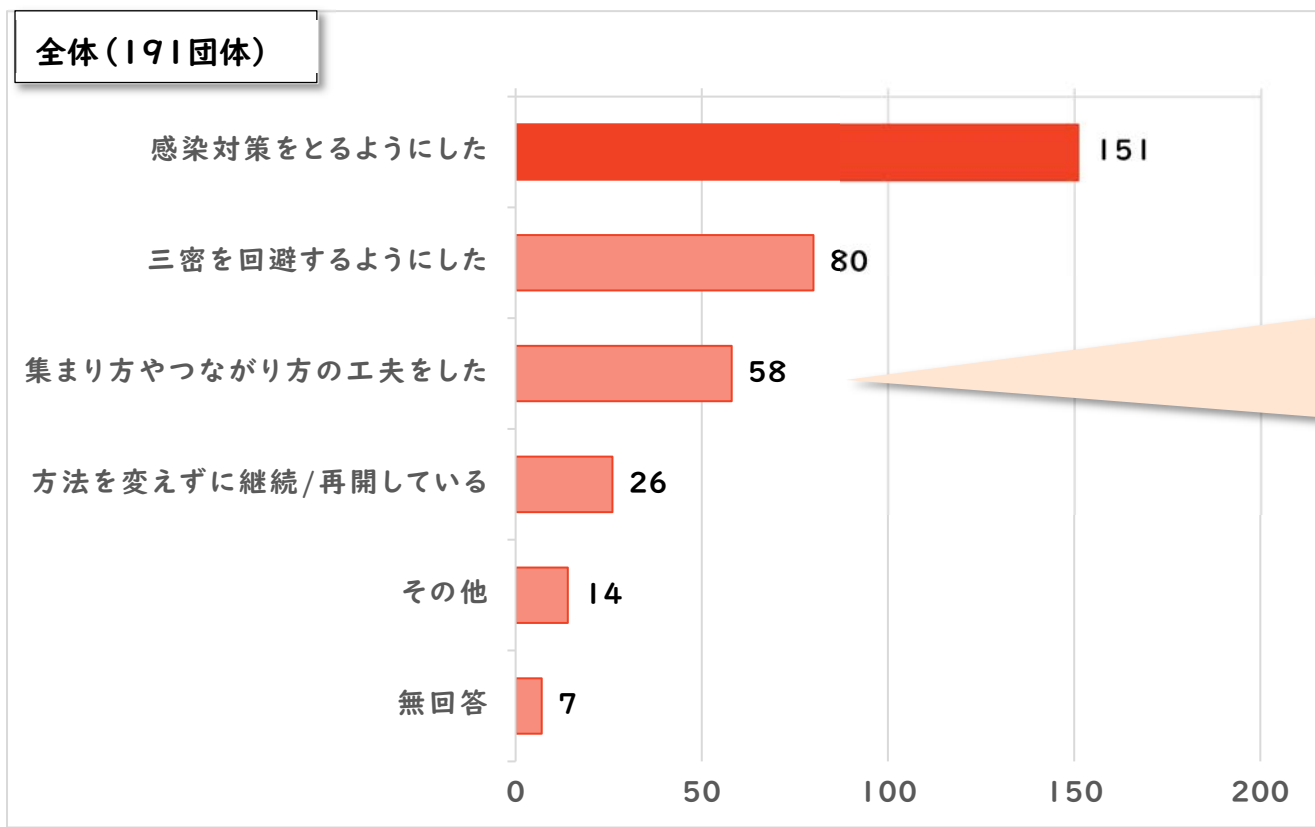
### 慰問活動や催しの企画・実施をする団体(56団体)



### 情報保障や情報発信、調査・研究に関わる団体(9団体)



活動を継続または再開後、どのように形や方法を変えたか（複数回答） ※9月の時点で活動を再開していない41団体を除く



感染予防策を徹底する動きが最も多かった一方で、約3割の団体は「集まり方やつながり方の工夫をした」と回答し、活動方法を変更することで活動継続・再開を果たしていた。コロナ禍の状況でも、柔軟な対応や工夫により、地域での活動やつながり方に幅が生まれたと考えられる。

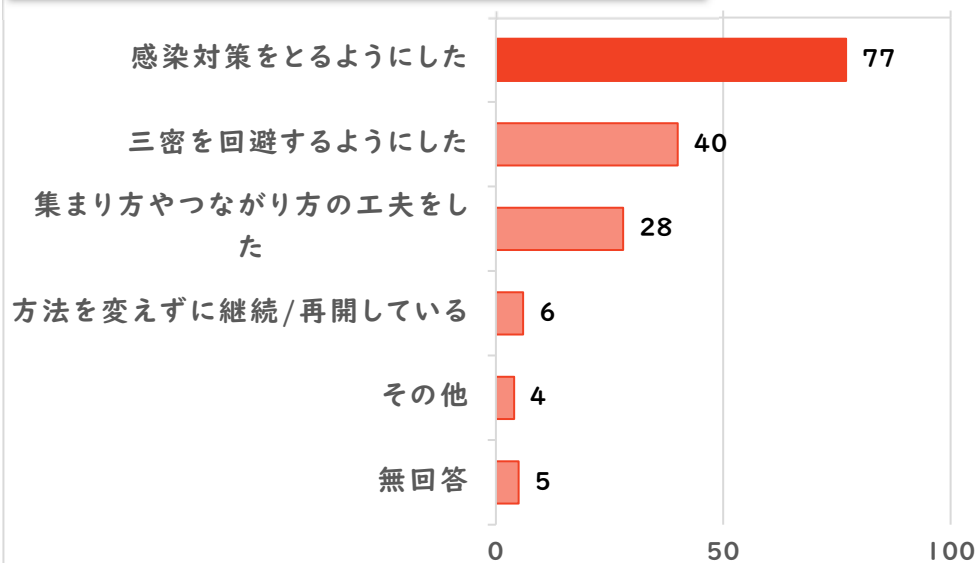
（その他の回答）

- ・集いで出す茶菓子を個配対応や持ち帰り対応にした。・分担をして全員が集まらないようにした。
- ・コロナ禍でもできる活動について、積極的にメンバーで集まる場を持ち、意見を出し合った。
- ・活動時間は同じだが、疲れやすくなっているため、休憩を多くとっている。
- ・参加を強く要求しないようにした。 ・おしゃべりの時間を短くした。

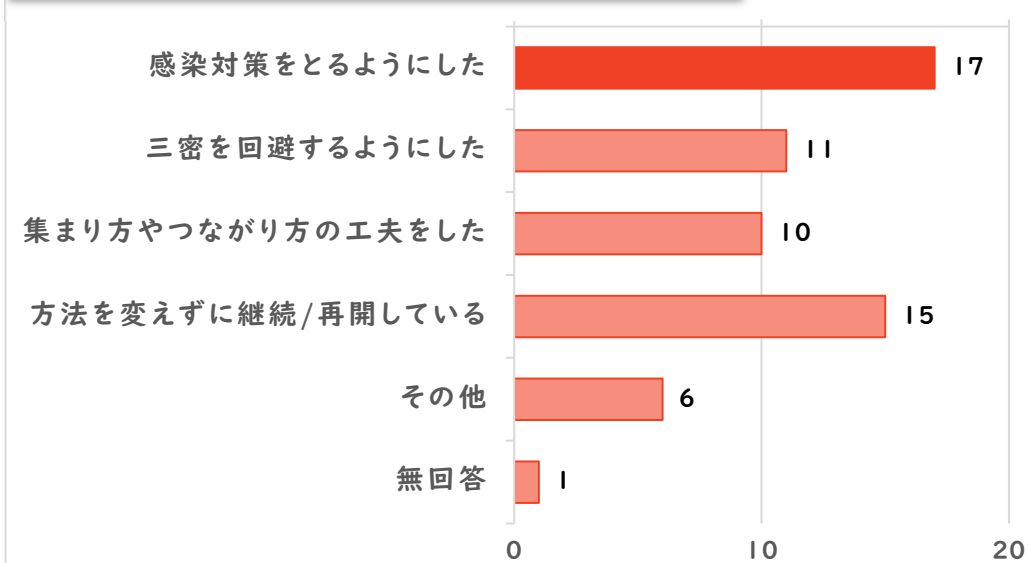
団体区分別にみると・・・

屋外での活動の場合は、物理面での感染予防策のとりやすさから、特に方法を変えずに活動継続した団体が多かった。

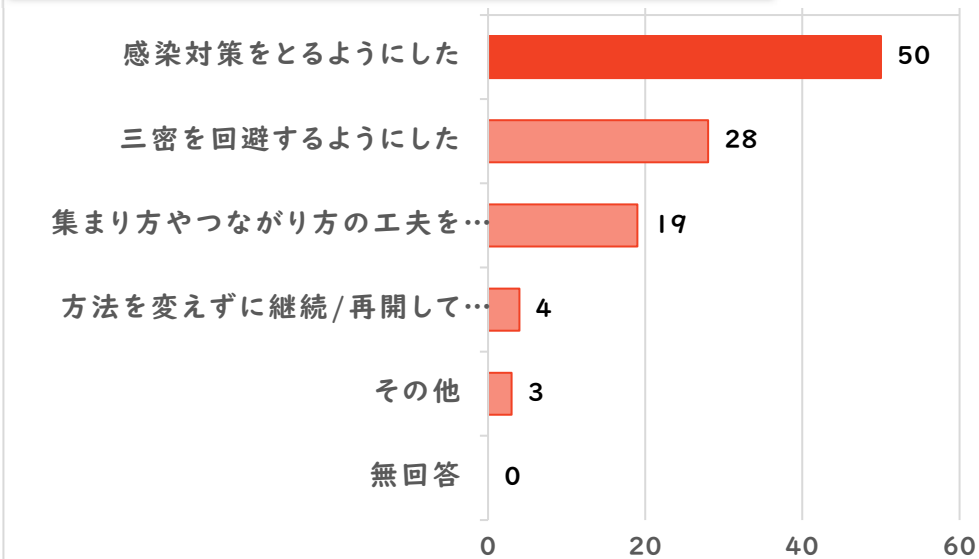
### 対人援助活動に関わる団体 (90団体)



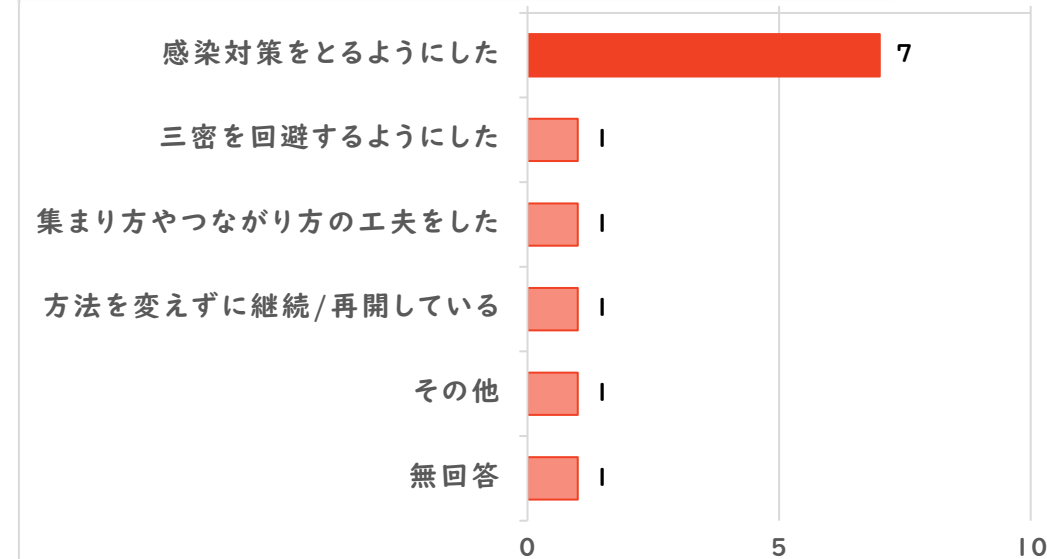
### 屋外で活動を実施する団体 (36団体)



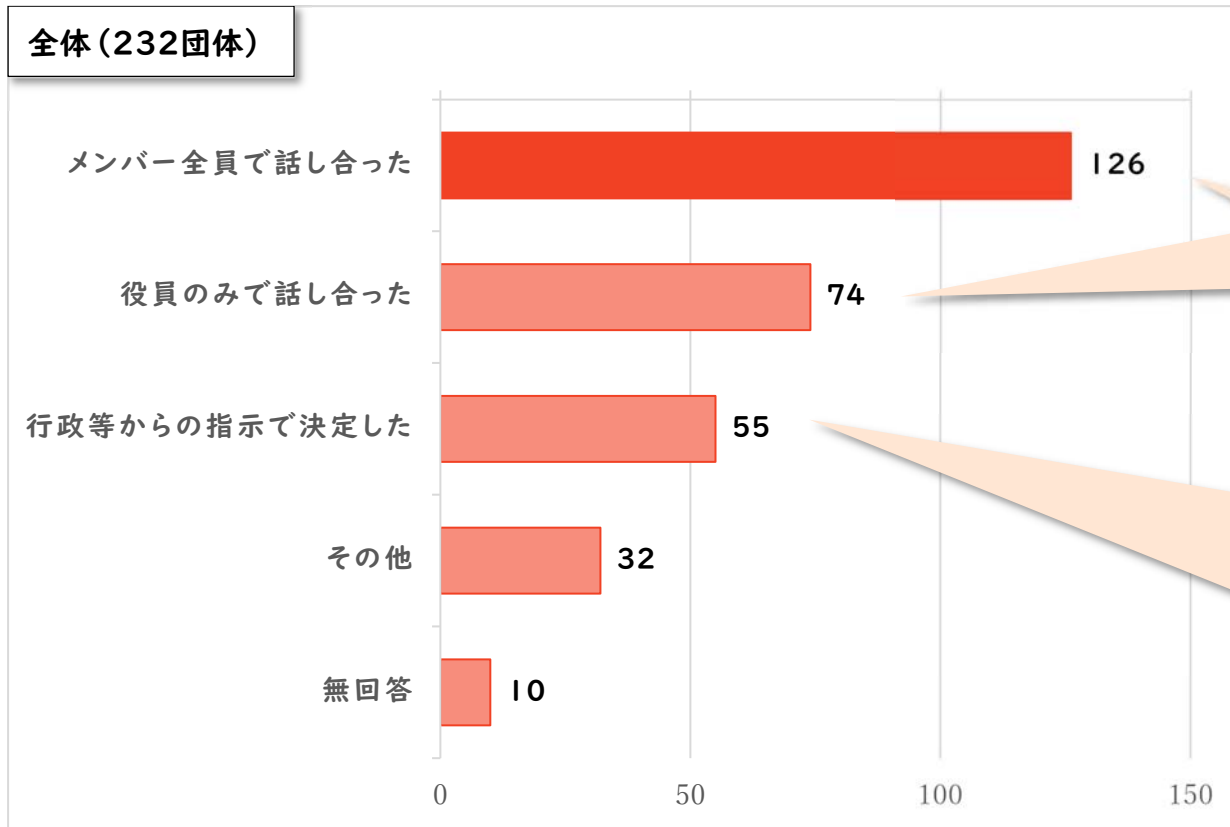
### 慰問活動や催しの企画・実施をする団体 (56団体)



### 情報保障や情報発信、調査・研究に関わる団体 (9団体)



## 活動中止や継続をどのように決めたか（複数回答）



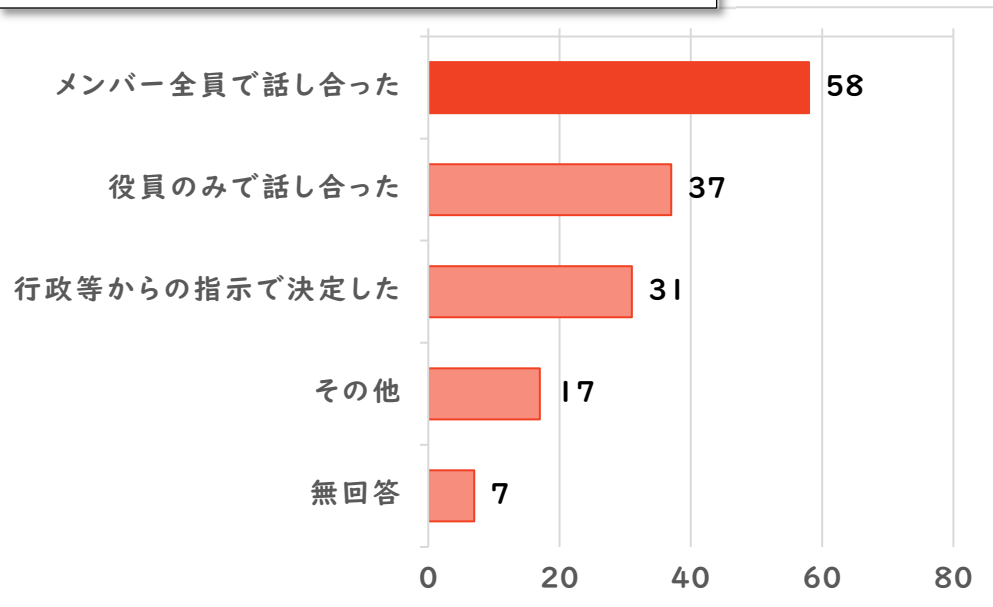
メンバー全員または役員による協議を経て決定したグループが多かった。話し合いのプロセスと、決定事項がグループの総意となるような働きかけがあったものと思われる。

行政等からの指示による決定は約24%だったが、団体内の協議の場合にも行政指示や各種団体のガイドライン等を参考にしたとの自由記載があり、実質的には重要な要素となったことが考えられる。このことから、指示やガイドラインを出す側が、団体の活動再開・継続の拠りどころともなることを意識して検討する必要性が示唆された。

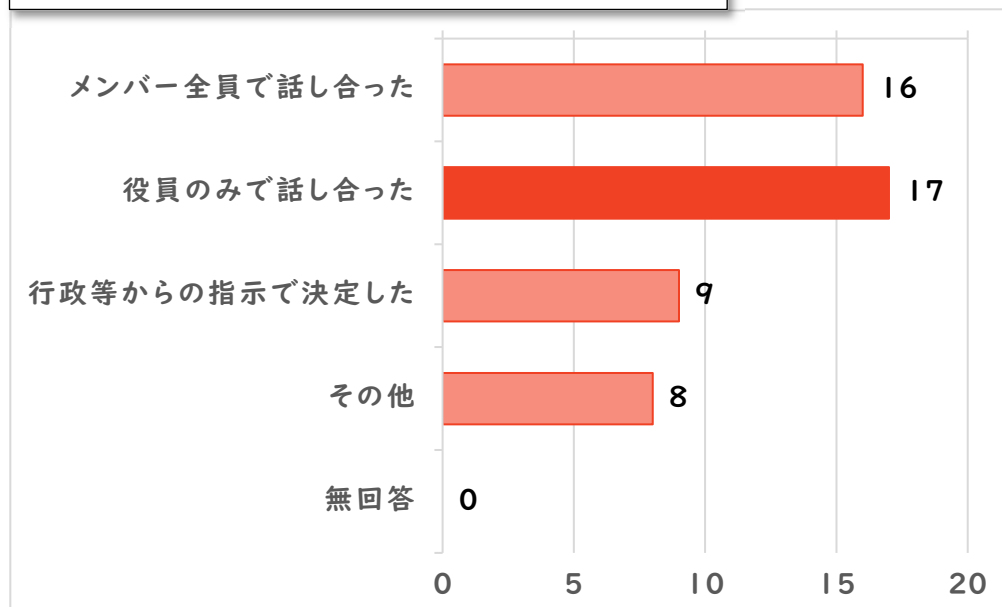
### （その他の回答）

- ・社協が提示したガイドを参考にした。
- ・リーダーの意向にメンバーがついていく形になった。
- ・活動者の体調に合わせて中止・再開を行った。
- ・対象者、地域の方々から意見を聞いた。
- ・会場使用の可否により判断した。
- ・社会全体の情勢（様子）を見ながら判断した。
- ・関係機関からの指示により決定した。

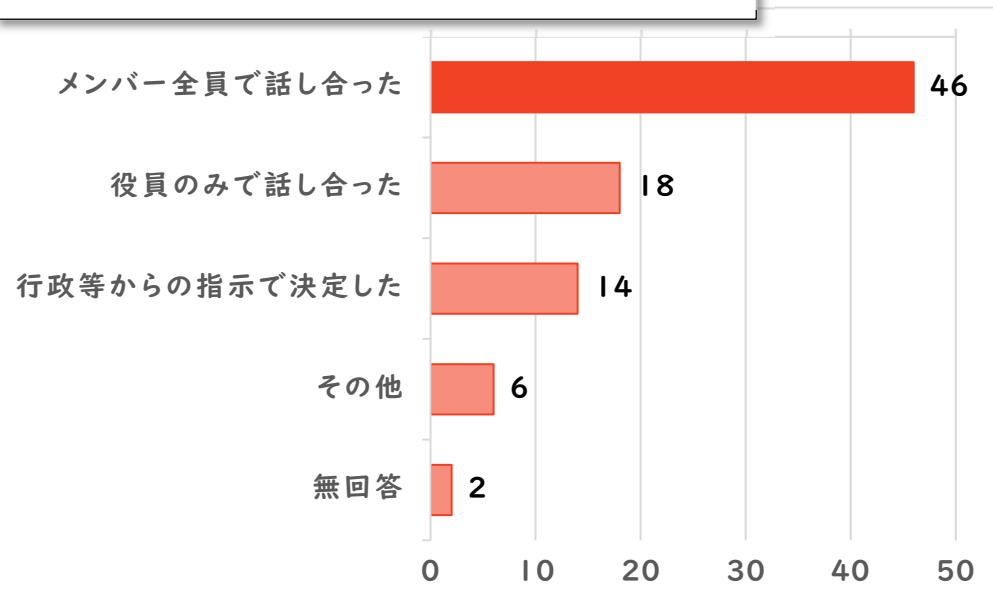
対人援助活動に関わる団体(111団体)



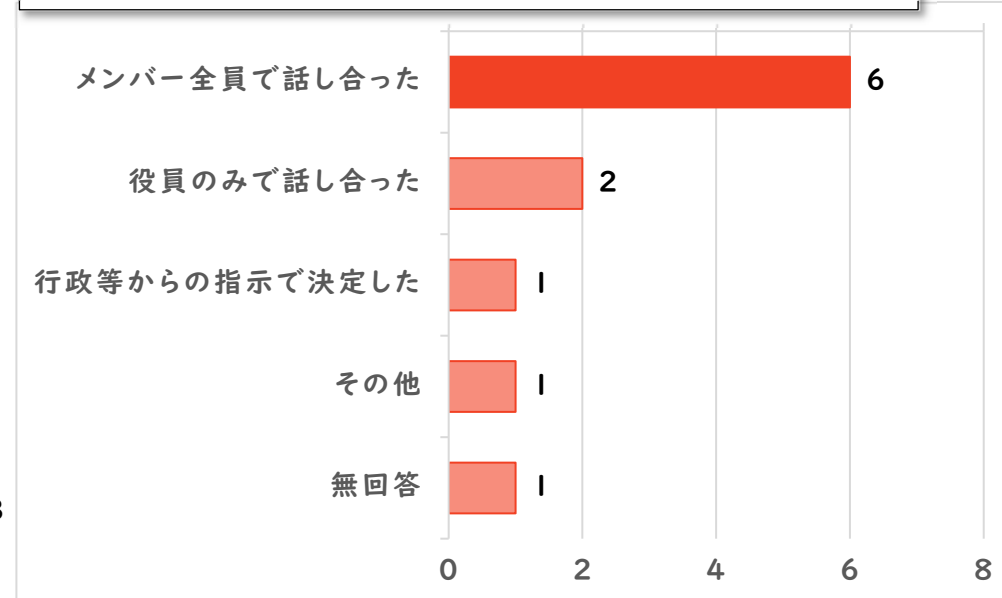
屋外で活動を実施する団体(37団体)



慰問活動や催しの企画・実施をする団体(74団体)

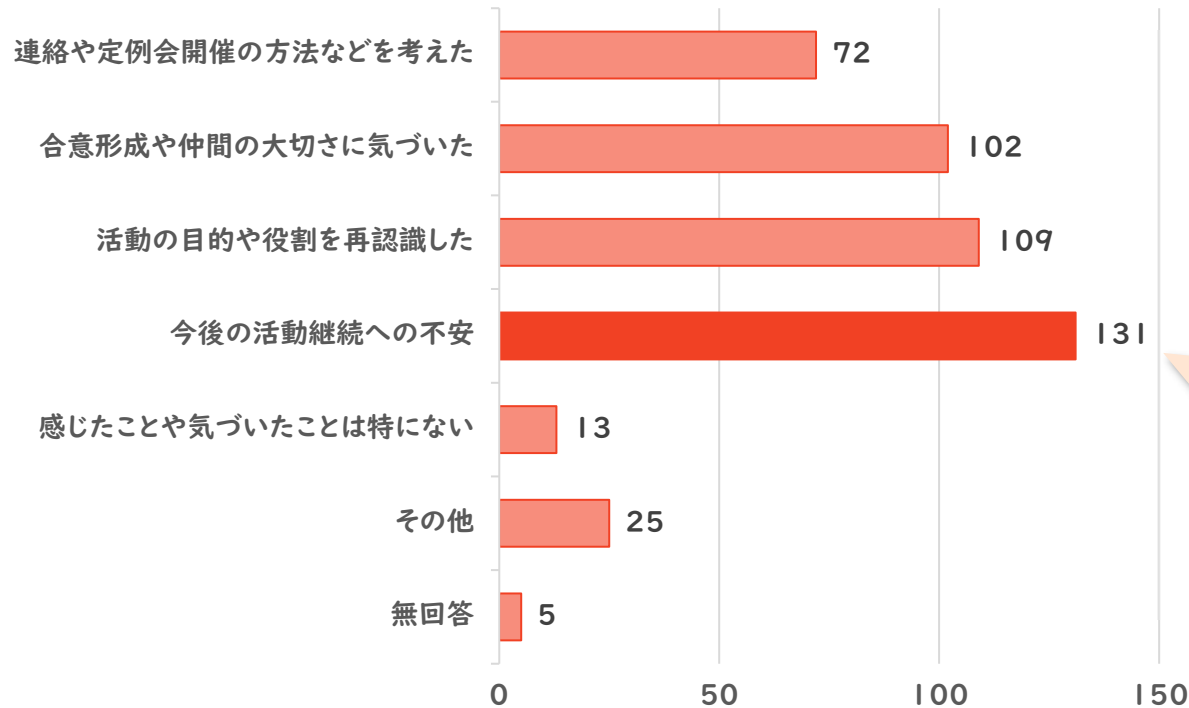


情報保障や情報発信、調査・研究に関わる団体(団体10団体)



## 新型コロナの影響を受け、感じたことや気付いたこと（複数回答）

全体（232団体）



依然として状況の終息が見込めない中で、今まで取り組んできたコロナ禍前の活動に戻せないことへの不安を感じるとともに、活動意義やグループ運営など、活動の根幹について考えた団体が多かったと言える。

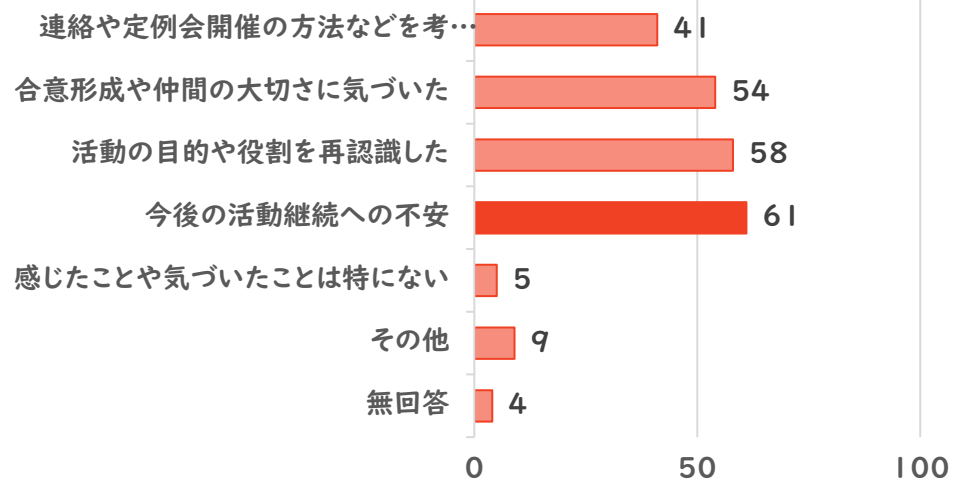
同一団体内でも、社会的な情勢に応じて活動のあり方を再検討する思いと、元の活動を求める思いがあり、不安定さを抱えている可能性がある。

### （その他の回答）

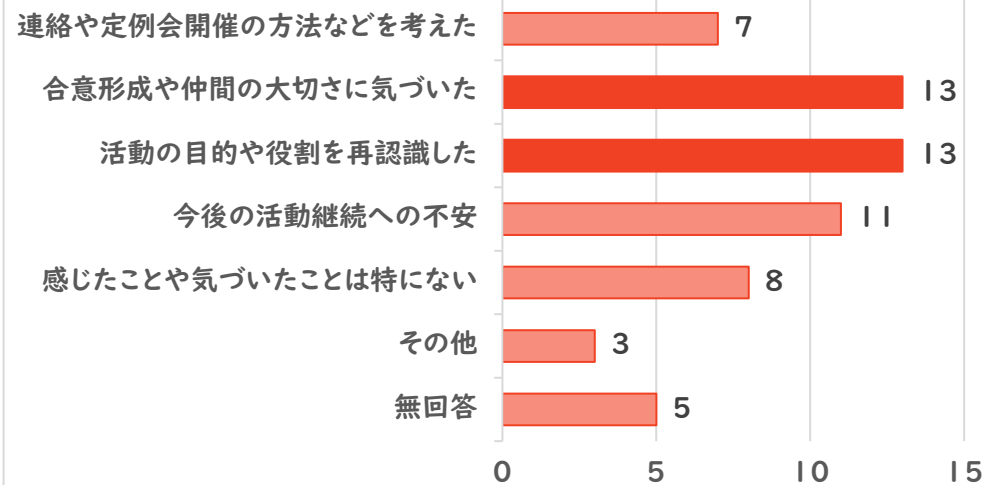
- ・定例の活動を見送っておられる団体の取り組みの工夫、改善策を知りたい。 ・毎回終わるごとに次回は開催できるかなぁ？という思い・不安がある。
- ・会としての活動はできなくても、メンバーで時々会って話すことがモチベーションを維持するためにも大事だと思った。
- ・サロン活動が参加者だけでなく、ボランティアにも喜びや充実感を与えていることを強く感じた
- ・活動の公的機関が閉鎖している際、利用できずに不便を感じた。 ・形に制約がかかり、理想形でできないことで活動の意義に疑問を感じる。
- ・ボランティアの依頼がなくなると練習に力が入らなくなることがよく分かった。



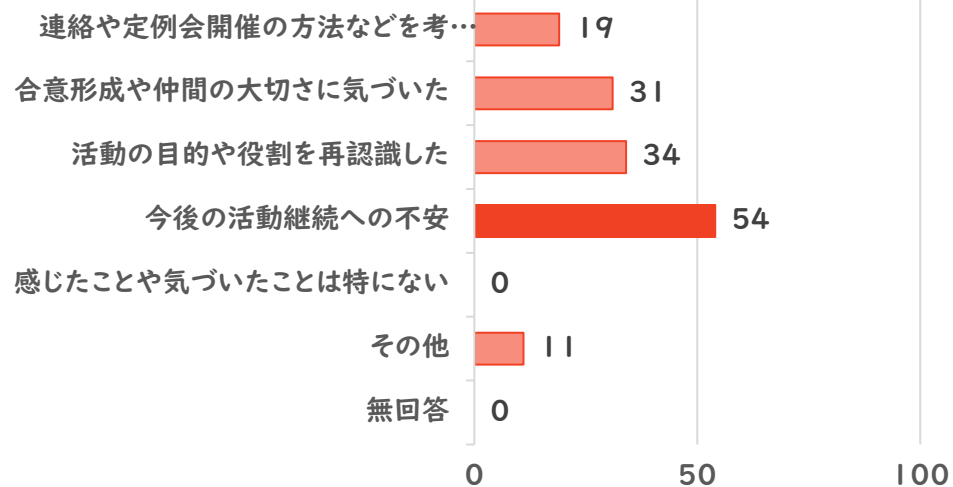
### 対人援助活動に関わる団体(111団体)



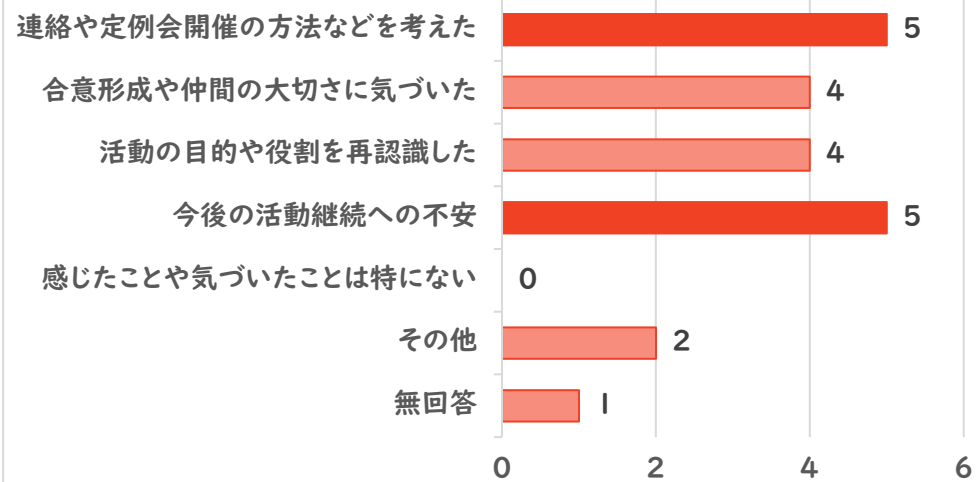
### 屋外で活動を実施する団体(37団体)



### 慰問活動や催しの企画・実施をする団体(74団体)

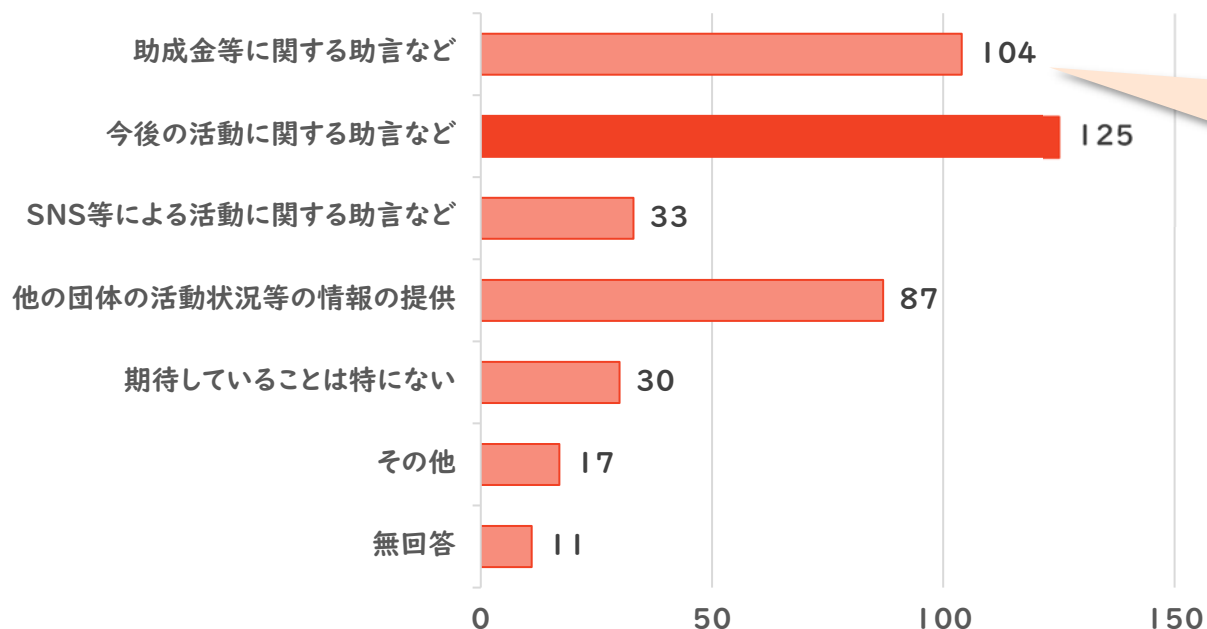


### 情報保障や情報発信、調査・研究に関わる団体(10団体)



## 社協や行政に期待していること（複数回答）

全体（232団体）



全体の約45%が「助成金・支援金に関する助言など」と回答した。既に交付決定を受けている助成金等の辞退手続き等の支援が求められていることがわかった。

### 団体区別にみると・・・

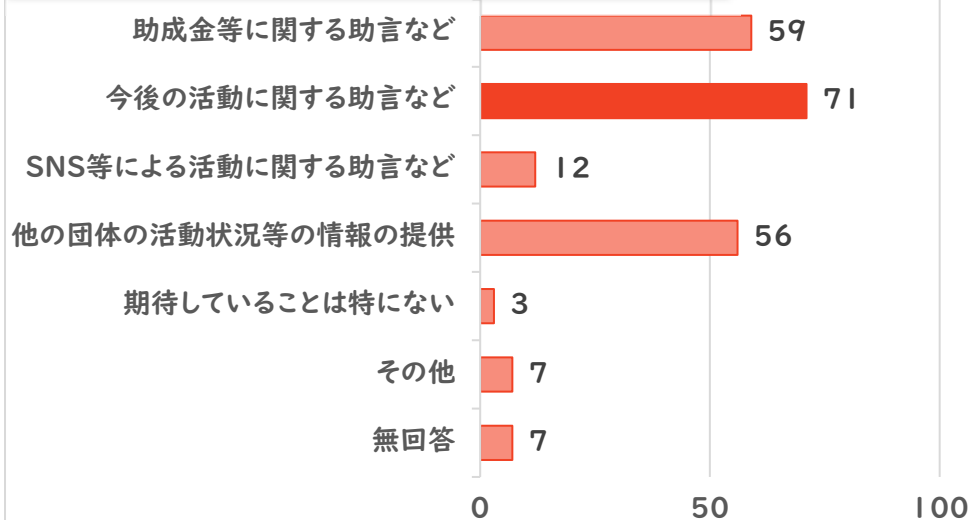
対人援助活動をする団体では、約半数が「他の団体の活動状況等の情報の提供」と回答し、その時々々の活動内容や感染対策についての助言に加え、今後の活動を検討するためのヒントや後押しとなる支援も期待されていることがわかった。

慰問活動等をする団体では、約23%が「SNS等による活動に関する助言など」と回答し、団体のPRや活動披露、催し等の開催のためのツールとしてSNSに期待・関心を持っていることが考えられた。

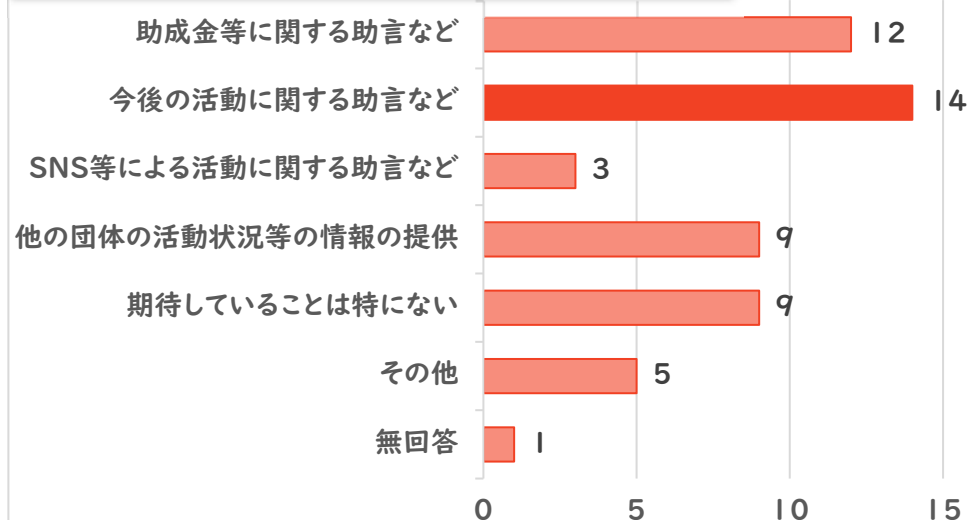
### （その他の回答）

- ・感染症対策の知識がなく苦勞した。看護師派遣や講習などで感染症対策の知識を提供してもらいたい。
- ・万が一活動者がコロナに感染した時の行政としての対応のあり方を明確にして欲しい。そして安心して活動ができるように支援して欲しい。
- ・フレイル予防、健康寿命を延ばすために適度な運動やよい食事などの情報を伝えてほしい。
- ・活動の中止で事業収入が不足し、資金不足となり活動に支障が出る。資金助成を検討して欲しい。
- ・活動によるコロナ感染の責任の所在とボランティア保険の適用の有無について知りたい。

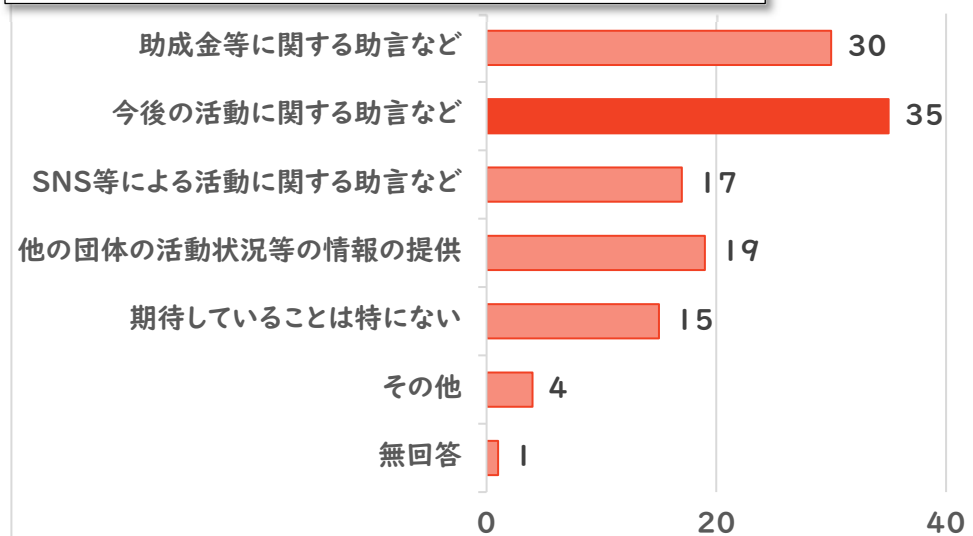
### 対人援助活動に関わる団体(111団体)



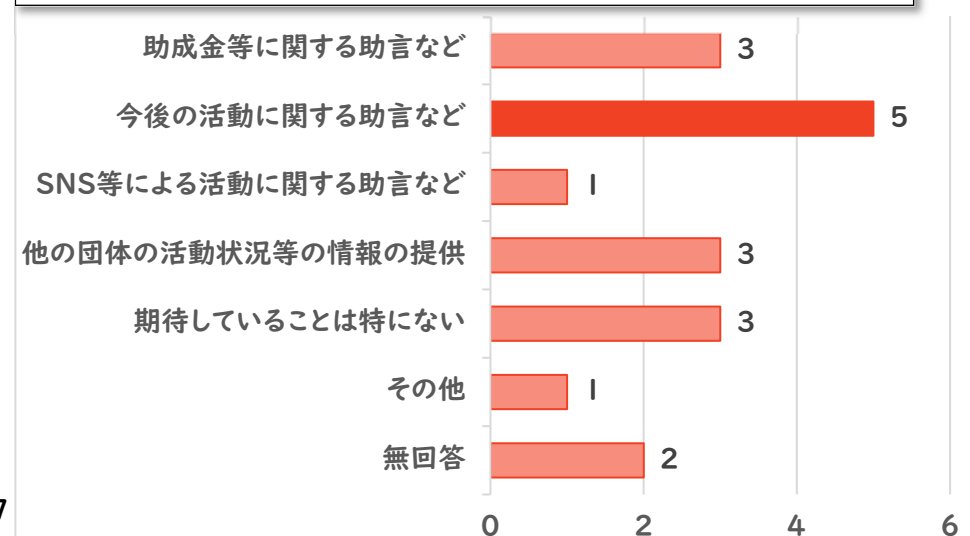
### 屋外で活動を実施する団体(37団体)



### 慰問活動や催しの企画・実施をする団体(74団体)

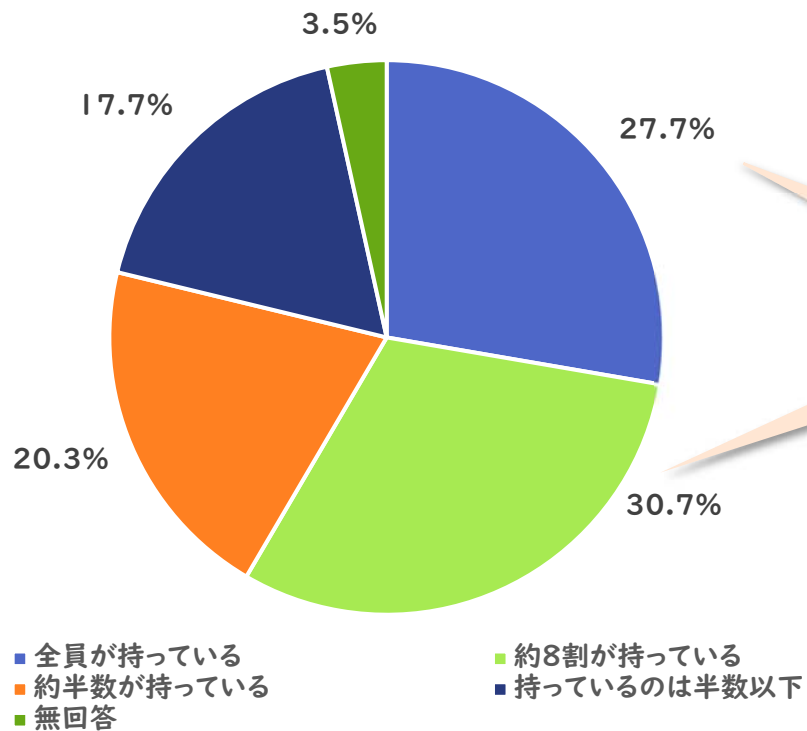


### 情報保障や情報発信、調査・研究に関わる団体(団体10団体)



## スマートフォン(スマホ)を持っている方がどれくらいいるか

全体(232団体)



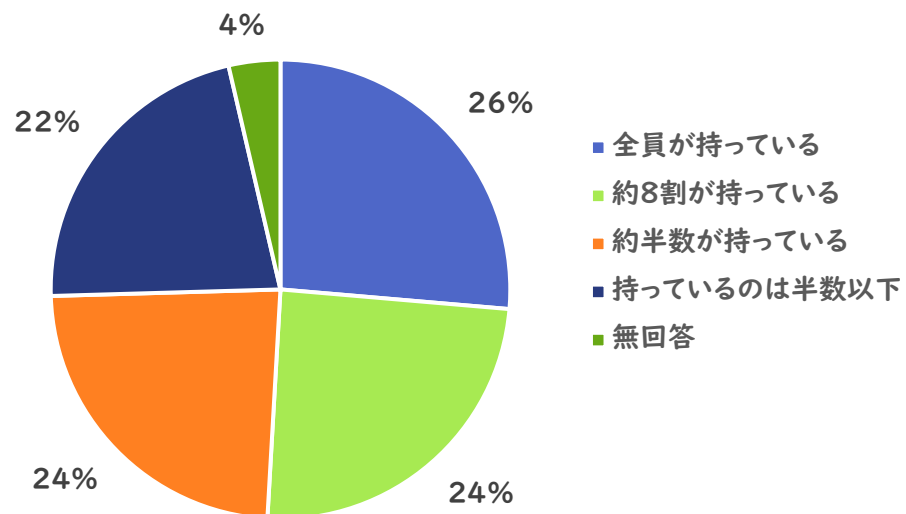
メンバーの8割以上がスマートフォンを所持している団体が約58%を占めた。

### 団体区分別にみると・・・

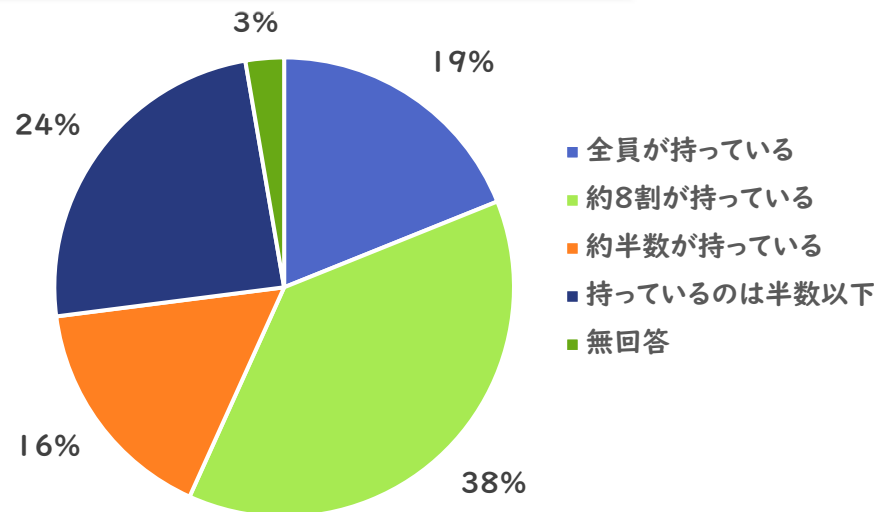
対人援助活動をする団体で約73%、慰問活動等をする団体で約86%、屋外で活動する団体で約73%が、メンバーの半数以上がスマートフォンを所持していた。

いずれも、同一団体内で持っている／持っていないメンバーが混在することで、メンバー間の情報伝達が煩雑になっている状況があると思われる。一方、コミュニケーションを促進するツールを普段から使用していることで、今後活動方法や内容がより幅広く展開される可能性がある。

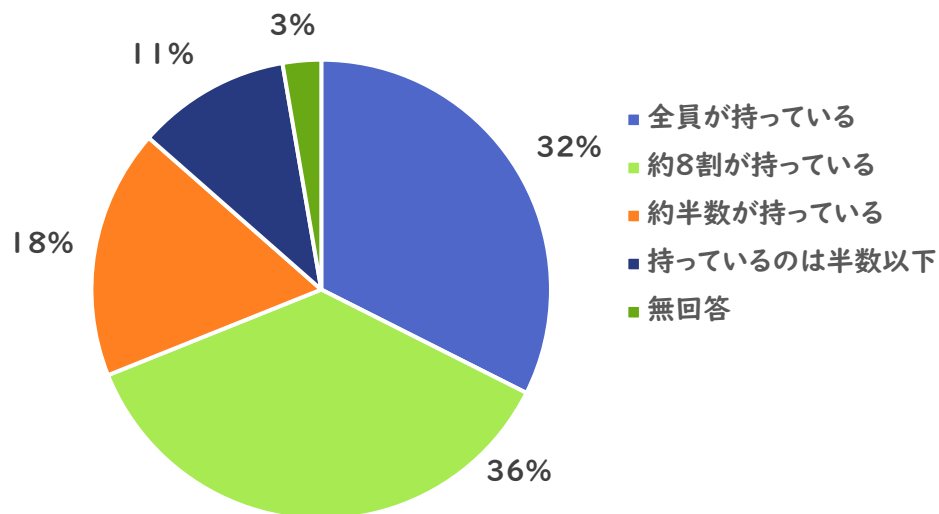
対人援助活動に関わる団体(111団体)



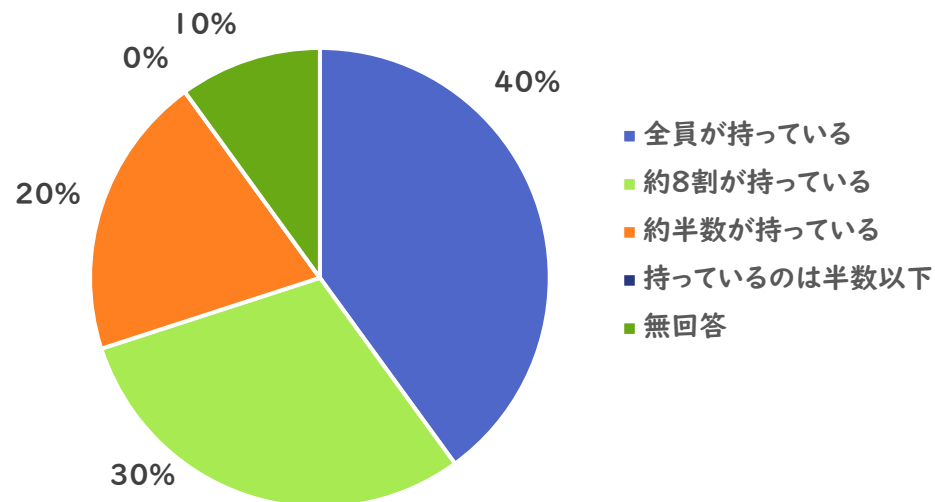
屋外で活動を実施する団体(37団体)



慰問活動や催しの企画・実施をする団体(74団体)



情報保障や情報発信、調査・研究に関わる団体(団体10団体)



## 活動における困りごと（自由記述・一部抜粋）

### コロナ禍における活動に関すること

- コロナ禍において十分に活動できるか心配している。
- コロナでボランティアから活動の断りの電話があったときはどうしようかと考えた。メンバーといろいろ話、他の行事をした。
- 再開のタイミングを判断するための指標はないか。
- たくさん来てほしいけれど会場の関係や三密をさけるため、また、たくさん来られるほど運営資金が不足するというジレンマがあり、積極的に声掛けできない。
- どの程度まで感染症対策を取ったらよいかかわからない。マスクとフェイスシールドの併用がいいと思うが、活動には不便である。
- 高齢者が多く、感染が最大の心配事である。一人暮らしの人も多く、閉じこもりも心配である。
- 点訳物は例年どおり届けられているが、利用者さんとのコミュニケーション(交流会等)の不十分さを感じている。
- 出演の機会が大幅に減ったことで、活動者のモチベーションの維持に困っている。今は個々の力を蓄える時期だと割り切り、身内だけで発表会を実施するなどコロナ後に備えようと考えている。
- コロナ感染への不安等で元の活動に戻るきっかけがつかめない。
- コロナが早く終息し、ボランティア活動で喜んでもらいたい。

### メンバーの減少や高齢化に関すること

- メンバーの高齢化に伴い、今後の活動を心配している。
- 会員の高齢化に伴い、新規会員を募集しなければ継続するのが難しい。会員になることのメリットも考える必要がある。
- 代表者である自分がスマホを持っておらず、持ちかえるかどうか試案中である。自分自身も来年80歳であり、いつまで活動できるか悩ましい。
- 後継者がいないのが心配。今のメンバーが活動できなくなると、会としての活動ができなくなる。
- 活動者のほとんどが高齢者でどこまで続けられるか心配だが、参加者の人たちが楽しみにしているので、すこしでも長くできたらと思っている。
- 活動メンバーがいないので募集したいが方法が分からない。
- 利用者(高齢者)は年々増加しているが、メンバーが不足している。メンバーも高齢になり、活動を辞められた後の補充に困っている。
- ボランティアの人数が少なく、退会された方に無理を言って助けてもらっている状況。チャイルドシート貸し出しの希望は多いので、人数(貸し出し台数)を制限し、翌月に回している。

#### 利用者・対象者に関すること

- 私の地区に精神障害の一人暮らしの方がいるが、国からの給付金の手続きを取られたか聞けず心配している。
- 新しい参加者をどう増やすか悩んでいる。
- サロン参加者は6名。うち、常時参加は3・4名。参加者募集の回覧をまわしても入会者はない。プラザより情報提供を受けても前向きになれないのが正直なところである。

#### 活動資金や助成金に関すること

- 市支援金の終了に伴い、今後の活動資金に不安がある。
- アルコール・マスクなど、例年にない支出が増えている。支援金・助成金の補助対象金額や項目の枠をなくしてほしい。
- いつでもボランティアに行けるように練習を続けているので、練習に伴う経費(機材や消耗品の購入費用)の助成が欲しい。
- 活動日数が少なくなる可能性が出たので、昨年までのような助成を受けることが出来なくなった。
- 次年度から市民活動支援金がなくなることで、イベント費用や活動に必要な費用の対応ができない。
- 助成金におけるコロナ関連の対応について知りたい。(回数を減らしても良いかどうか)

#### 活動拠点や使用会場に関すること

- 市民活動センターが今後どうなるのか心配している。
- 会場予約が希望日時に来るか非常に不安。予約可能時期になって予約を申し入れても先約があって取得できないときは、振り替え計画対応に非常に困る。

#### グループ運営等に関すること

- リハビリセンターの高次脳機能障害の家族会に登録したが、今の運営方法でいいのか悩んでいる。家族会の基本的運営の仕方など教えてほしい。
- SNS を用いての活動ができない。

#### 行政・社協等への期待に関すること

- サロン開催の判断をするためにも、市にはコロナ感染状況を積極的に公表してもらいたい。風評被害などの問題があれば、それを課題として取り組めばよい。
- このアンケート結果を何らかの形で示してほしい。 ○コロナ不安が解消され、ひと時でも早く以前の活動ができるように行政の方々と協力してやっていきたい。
- 三木市の行政の方が障害を理解しておらず、当事者家族が相談しづらい状況である。自分たちの主催で高次脳機能障害の講演会をしているが、行政も医療・障害福祉関連施設の方に向けて講演会等を開催してほしい。